



国際標準論理文章能力検定
International Standard Competency
Test of Logical Thinking

Level 6-7

2013年度 第2回

問題用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。

まず、下記の注意をよく読んでください。

●検定上の注意●

1. 検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、
かんとくしゃ
手をあげて監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、いっしょ答案用紙と一緒に回収します。

一般財団法人 基礎力財団

問題Ⅰ 次の問いに答えなさい。

第一問 —— 線部の主語となる言葉を文中から抜き出しなさい。

人生は 夢の ようだと いう 表現は 時間の 早さと ともに はかなさを

あらわして いるようだ。

第二問 次の文章の —— 線部にかかる言葉を、例のようにすべて抜き出し、記号で答えなさい。

【例】 ア 大きい イ 荷物が ウ 家に 届いた。 答 イ・ウ

(1) ア 一夜漬^{いちやづ}は イ せっかく ウ 覚えたものでも エ すぐに オ わすれてしまうので
カ 効果が ない。

(2) ア 空に イ ぽっかりと ウ 浮^うかんだ エ 月が オ 橋を カ くつきりと 照^あらしていた。

第三問 次の文の（ ）の中にひらがな一字ずつを入れて、それぞれ文を完成させなさい。

(1) () () () () () () () () 試合に負けても、決してくじけないぞ。

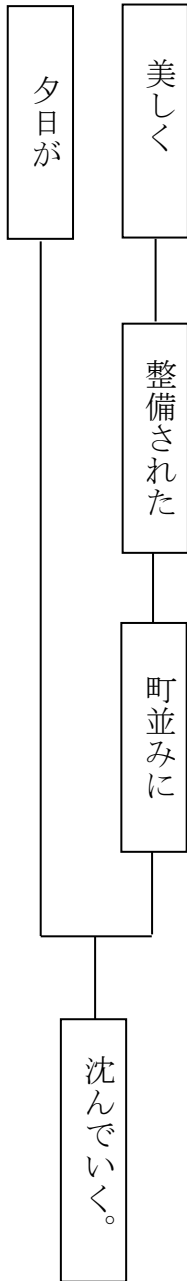
(2) 試合に負けて、() () () () () () () () () () くやしからう。

(3) 反則をして試合に勝つより、() () () () () () () () () () () () 負けの方がましだ。

第四問

次の文章は、後の構造図のどれに当たるか、例にならって、最もふさわしい図を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

【例】美しく整備された町並みに夕日が沈しずんでいく。

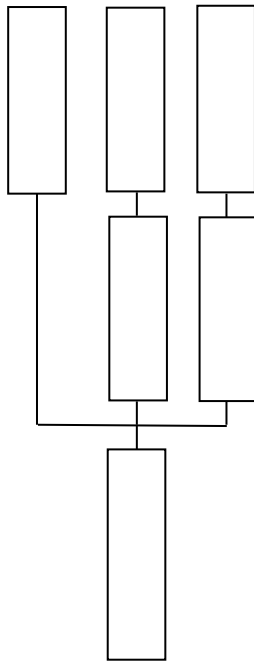


(1) 今日は 隅田川すみだがわの 花火大会だから 道が とても 混んでいた。

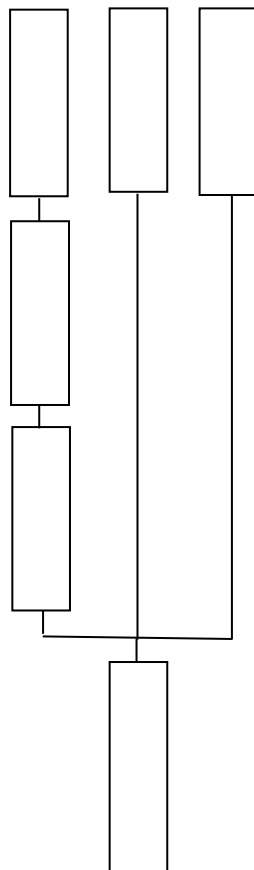
(2) 一日の 終わりに 自分への ごほうびとして ゲームを した。

(3) あの 人に 夢で 会えたら どんなに いいだろう。

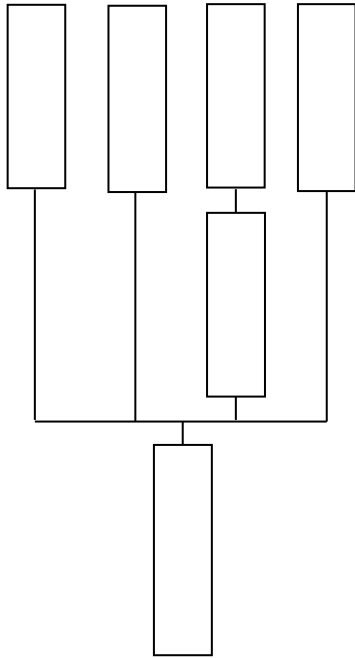
ア



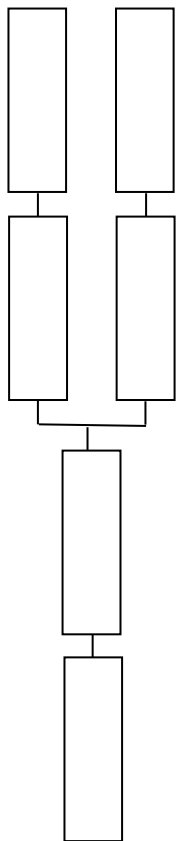
イ

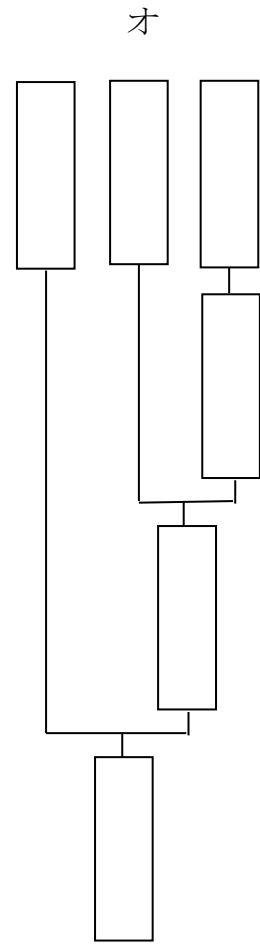


ウ



エ





第五問

次の文章の（ ）に入る適切な接続語を後のア～オの中から選び、記号で答えなさい。
ただし同じものを二回使ってははいけません。

- (1) これ以上歩けそうにない。（ ） 目的地までがんばろう。
- (2) 彼は勉強ができる。（ ） スポーツも万能だ。
- (3) 今日は雨になりそうだ。（ ） 傘かさを用意しなければならない。
- (4) 国語か、（ ） 算数か、どちらを勉強しようか。
- (5) 今日の晩ご飯は、（ ） 何が食べたいですか。

- ア たとえば イ だから ウ でも エ そのうえ オ それとも

第六問 (1) ～ (5) に入るひらがなを、後のア～オの中から選びなさい。ただし同じものを

二回使ってはいけません。

ある日 (1) 事でございます。おしゃか様は極楽のはす池のふち (2) 、ひとりであらあお歩
きになっていらつしやいました。池の中に咲さいているはすの花は、みんな玉のようにまっ白 (3) 、そ
のまん中にある金色のずいから (4) 、何ともいえないよい匂におい (5) 、たえまなくあたりへあふれ
ております。極楽はちようど朝なのでございましょう。

アは イで ウの エが オを

問題Ⅱ

次の文章は大正時代に発行された有島武郎ありしまたけおの「生まれいずる悩み」の一場面です。主人公の「君」は北海道の貧しい漁師の家に生まれながら、周囲の理解が得られないまま画家を目指しています。文章を読み、後の問に答えなさい。

自分が満足だと思つたところはどこにあるのだろう。それは（ a ）自然の影絵に過ぎないではないか。向こうに見える山はそのまま寛大と希望とを象徴するような一つの生きたマツスであるのに、君のスケッチ帳に縮め込まれた同じものの姿は、なんの表情も持たない線と面との集まりとより君の目には見えない。

この悲しい事実を発見すると君は躍起^{※1}となつて次のページをまくる。（ b ）自分の心持ちをひとときわ謙遜な、そして執着^{ねば}の強いものにし、粘り強い根気でどうかして山をそのまま君の画帖^{※2}の中に生かし込もうとする、新たな努力が始まると、君はまたすべての事を忘れ果てて一心不乱^{いっしんからん}に仕事の中に魂^{たましい}を打ち込んで行く。そして君が昼弁当を食う事も忘れて、四枚も五枚ものスケッチを作つた時には、もうだいぶ日は傾^{かたむ}いている。

（ c ）とてもそこを立ち去る事はできないほど、自然は絶えず美しくよみがえつて行く。朝の山には朝の命が、昼の山には昼の命があつた。夕方の山にはまたしめやかな夕方の山の命がある。山の姿は、その線と陰日向とばかりでなく、色彩にかけても、日が西に回るとすばらしい魔術^{まじゅつ}のような不思議を現わした。峠^{とうげ}のある部分は鋼鉄のように寒くかたく、また他の部分は気化^{きか}した色素のように透明^{とうめい}で消えうせそうだ。夕方に近づくにつれて、やや煙^{けむ}り始めた空気の中に、声も立てずに肅然^{※4}とそびえているその姿には、くんでもくんでも尽きない平明な神秘が宿っている。見ると山の八合目とおぼしい空高く、小さな黒い点が静かに動いて輪^{えが}を描いている。それは一

羽の大鷲おおわしに違ちがいない。目を定めてよく見ると、長く伸ばのした両の翼を微塵も動かさずに、からだ全体をやや斜ななめにして、大きな水の渦うずに乗った枯れ葉かのように、その驚わしは静かに伸びやかに輪を造っている。山が物言わんばかりに生きてると見える君の目には、この生物はかえって死物のように思おもいなされる。(d) 平原のところどころに散在する百姓家ひやくしやうやなどは、山が人に与あたえる生命の感じにくらべれば、惨みじめな幾いくこ個かの無機物に過ぎない。

昼は真冬からは著ししく延びてはいるけれども、もう夕暮れの色はどんどん催もよおして来た。それとともに肌身はだみに寒さも加わって来た。落日らくじつにいろどられて光を呼吸するように見えた雲も、煙けむりのような白とうす藍あいとの陰日向かげひなたを見せて、雲とともに大空の半分を領りやうしていた山も、みるみる寒い色に堅かたくあせて行いった。

君は思おもわずため息をついた。言ことい解ときがたい暗愁あんしゆう——それは若い人が恋人を思こいう時に、その恋こいが幸福であるにもかかわらず、胸おくの奥おくに感かぜられるような——が不思議に君を涙なみだぐましくした。君は鼻をすすりながら、ばたんと音を立ててスケッチ帳を閉じて、鉛筆えんぴつといっしょにそれをふところに納めた。凍こおてた手はふところの中の温ぬみをなつかしく感かじた。弁当は食くう気がしないで、切り株かぶの上からそのまま取とって腰こしにぶらさげた。半日立ち尽つくした足は、動うごかそうとすると電気をかけられたようにしびれていた。ようようの事で君は雪の中から爪先つまさきをぬいて一歩一歩本道のほうへ帰かえって行いった。はるか向むかこうを見ると山から木材や薪炭しんたんを積たみおろして来た

馬そりがちらほらと動いていて、馬の首につけられた鈴すずの音がさえた響ひびきをたててかすかに聞こえて来る。それは漂浪ひょうろうの人がはるかに故郷の空を望んだ時のようななつかしい感じを与える。その消え入るような、さびしい、さえた音がことになつかしい。不思議な誘惑ゆうわくの世界から突然現世とつぜんに帰った人のように、君の心はまだ夢ごこちで、芸術の世界と現実の世界との淡々しい境界線をたどっているのだ。そして君は歩きつづける。

いつのまにか君は町に帰って例の調剤所ちやうざいしょの小さな部屋で、友だちのKと向き合っている。Kは君のスケッチ帳を興奮した目つきでかきここ見返している。

「寒かったろう」

とKが言う。君はまだほんとうに自分に帰り切らないような顔つきで、

「うむ。……寒くはなかった。……」

と答える。

「(一) 君がすっかり何もかも忘れてしまって、か駆けまわるように鉛筆えんぴつをつかった様子がよく見えるよ。きょうのはみんな非常に僕の気に入ったよ。君も少しは満足したろう」

「実際の山の形にくらべて見たまえ。……」

三

と君は急いで言いわけをする。

「（四）」

Kはげんそうにスケッチ帳から目を上げて君の顔をしげしげと見守る。

君の心の中には苦い灰汁あくのようなものがわき出て来るのだ。漁にこそ出ないが、ほんとうを言うと、漁夫の家には一日として安閑あんかんとしていい日とてはないのだ。きょうも、君が一日を絵に暮らしていた間に、君の家では家じゅうで忙しく働いそいでいたのに違ちがいないのだ。

※1 躍起（やつき）…あせってむきになること。 ※2 画帖（がじょう）…スケッチブックのようなもの。

※3 陰日向（かげひなた）…日の当たらない所と日の当たる所。 ※4 肅然（しゆくぜん）…おごそかで整ったさま。

※5 暗愁（あんしゅう）…心を暗くする悲しい物思い ※5 安閑（あんかん）…のんびりとして、静かなさま。

第一問 —— 線部①の「それ」が指すものを、二十字以内で抜き出しなさい。

第二問 (a) () (d) に入る言葉を、次のア～エから選んで答えなさい。

ア そして イ しかし ウ いわば エ ましてや

第三問 —— 線部②の時の君の気持ちとして最も適切なものをア～エから一つ選びなさい。

ア 自分の絵の出来映えできばに手応えを感じて、夢中にスケッチをしている。

イ 山の命を写し取ることができず、絶望しながらスケッチをしている。

ウ 自分の絵の出来映えできばに満足できず、もう絵を描くかのをやめようかと悩んでいる。

エ 山の命を何とか写し取ろうと、時がたつのも忘れて必死になっている。

第四問 —— 線部③「小さな黒い点」とは何のことか、五字で抜き出ぬきなさい。

第五問 次の文章を元の場所に戻した場合、直後の五字（句読点を含む）を抜き出しなさい。

そして靄^{もや}とも言うべき薄^{うす}い膜^{まく}が君と自然との間^{へだ}を隔てはじめた。

第六問 （一）～（四）に入るセリフをア～エから選んで答えなさい。

ア 僕は親父にも兄貴にもすまない

イ その線の鈍^{にぶ}っているのは寒かったからではないんだ

ウ なんぞ？

エ 鈍^{にぶ}ってはいはしない。

問題Ⅲ 次の問いに答えなさい。

第一問 次の文章の要点を四十字以内（句読点を含む）で書きなさい。

今の教育は教科書に書かれた知識を一方的に詰め込むだけで、その結果として何かが起こっても人から指示されるのを待つだけとなり、将来起こるであろう未知の出来事に対して、自分で判断する力を身につけることができないでいる。

第二問 次の語句を並べかえて、それぞれ文章を作ったとき、五番目に来る語句をア～キの中から選び、記号で答えなさい。

- (1) ア 考える イ 試験で ウ 論理的に エ である オ 国語の カ 大切なのは キ ちから
- (2) ア 急なことを イ そんなに ウ できないよ エ 言われても オ 変更へんこう
- カ 簡単に キ そう

第三問

次の語句を使って文章を作ったとき、不要な語句が二つあります。その語句をア～ケから選び、記号で答えなさい。

- (1) ア けれど イ 降ってきた ウ なかったので エ 雨が オ 傘かさが カ した
キ おでかけを ク やんだ ケ 雨宿りあまやどを
- (2) ア 時間を イ しまう ウ 夢中むちゆうになつて エ ことになる オ まだ
カ 好きな キ 僕ぼくは ク 忘れて ケ きらいな

第四問

次の文章の要点として最も適当なものを、後のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

日本ほど、敬語が高度に発達した国は珍めずらしい。敬語は何も人を上下関係でとらえることから来る言葉ではなく、ましてや、人とよそよそしい関係を築き上げるものでもない。むしろ、それとは逆で、自分と相手の距離を測り、場の空気も読みながら、そこで自分がどのような表現をすれば、相手とうまくコミュニケーションができるかを考えた、高度な言語表現なのである。

ア 日本ほど敬語が発達した国はめったにない。

イ 敬語は上下関係など、人との距離を考慮した表現である。

ウ 敬語は場の空気を読むことから生まれた。

エ 敬語はコミュニケーションのための高度な表現である。

問題Ⅳ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

芸術は普遍的なものであるか。(1)、時代を超えて、国境を越えて、どんな人にも伝わるものだろうか。現実には流行というものが存在し、その時々のはやり廃りがあることは、私たちは体験的に知っている。

(2)、ピカソの絵は彼が生きていた時代では今ほど評価は高くなかったが、今では天文学的な値段がついているし、ギリシャ時代の端正な彫刻と、現代の奇抜な形をした彫刻とでは、やはり時代によって何を評価するかが異なっているように思える。では、芸術は普遍的ではないのか。私は決してそうではないと思う。人間の心の奥深いところまで降りていけば、ギリシャ時代の人でも現代人でも、西洋人でも日本人でもそれほど大きく変

わかることはある。芸術における普遍性とはそこをよりどころにしているのではないか。(3)、真の芸術は時を超え、国境を越えて通じ合う。ただ、それにどのような形を与えて表現するかは、確かに時代によって流行がある。ピカソの絵は彼が生きていた時代には今のようには流行らなかったのだ。

第一問 (1) (2) (3) に入る言葉を、次のア～オの中から最も適切なものを選び、それぞれ

記号で答えなさい。

- ア つまり イ だが ウ たとえば エ さて オ だから

第二問 問題文を三つの段落に分けたとき、第二段落、第三段落の初めの五字(句読点を含む)を抜き出しなさい。

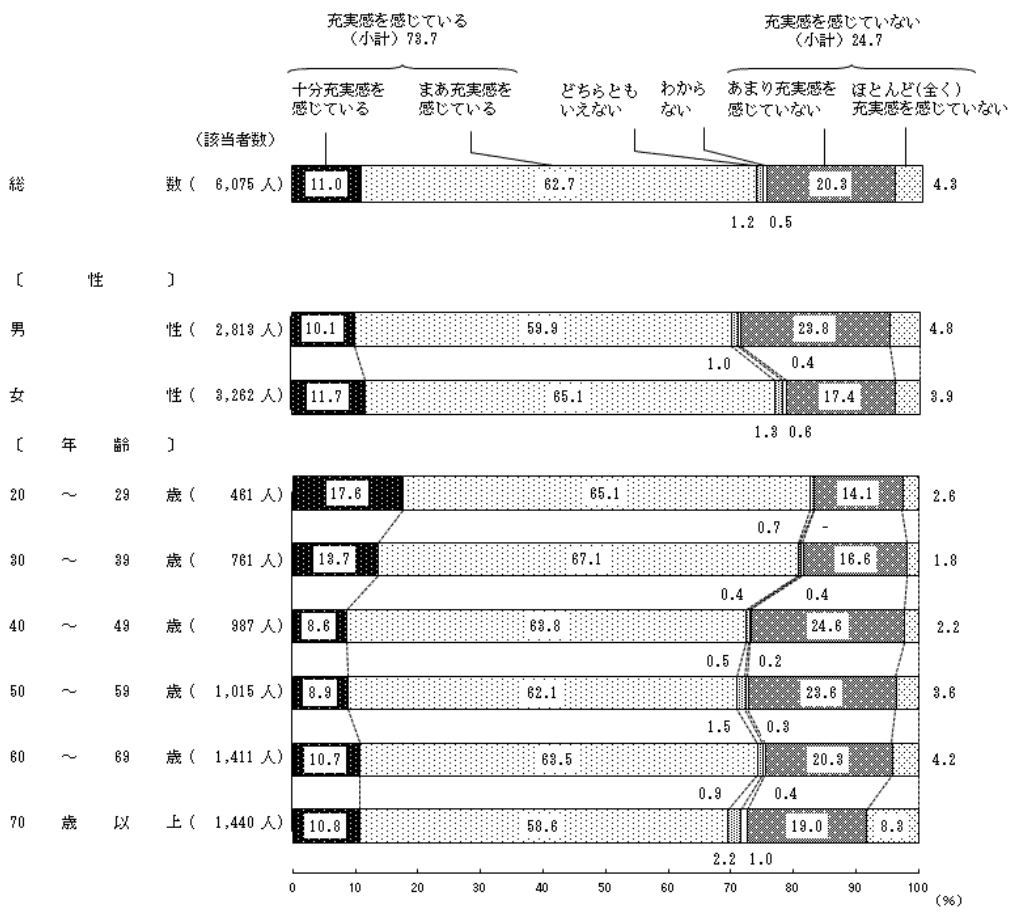
第三問 問題文の中に、明らかに間違っているところがあり、意味が通らなくなっています。その間違っているところを、ひらがな二字で抜き出し、正しい言葉に直しなさい。

第四問 筆者の主張と反対の立場を説明した段落はどこか。数字で答えなさい。

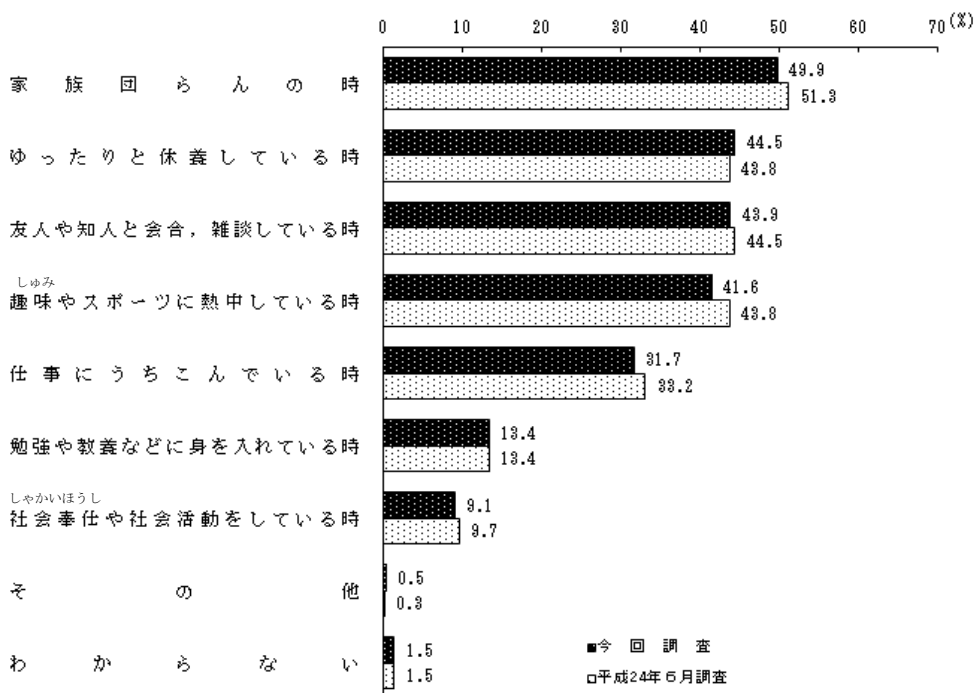
第五問 問題文の表題として、最も適当なものを選びなさい。

- ア 芸術の流行
 - イ 芸術の普遍性ふへんせいと流行
 - ウ 普遍性ふへんせいについて
 - エ ピカソの絵
- オ 芸術とピカソ

グラフ1 現在の生活に充実感を感じているか。



グラフ2 どんな時に充実感を感じるか。



問題V

次のグラフは「生活の充実感について」のグラフです。グラフを見て、後の問いに答えなさい。

じゅうじつかん

第一問 現在の生活を充実じゅうじつしていると感じている人は、男性と女性ではどちらが何パーセント多いですか。

第二問 充実じゅうじつしていると感じている人は、若年層じやくねんそうと高年齢層こうねんれいそうとはどちらが多いですか。

ただし、若年層じやくねんそうは三十九歳さんじゅうきゅうさいまでとする。

第三問 勉強べんきょうや仕事しごとをしている時ときと、余暇よかを楽したのんでいる時とき、どちらがより充実じゅうじつしていると感じていますか。

(余暇よか：勉強べんきょうや仕事の合間あひまなどの自由に使える時間じかん)

第四問 六十歳むそくさい以上いじょうで、「全く充実じゅうじつしていない」と感じている人の割合わりあひは何パーセントですか。

第五問 「男性おとこ」と「女性おんな」、「若年層じやくねんそう」と「高年齢層こうねんれいそう」のうち、最も現在の生活けいぜつが充実じゅうじつしていると感じている人の組み合わせあわせを答え、その理由りゆうとして考えられることを「余暇よか」という言葉ことばを使って、五十字以内ごじゅうじ以内で書きなさい。